

2005.10.17. 熊倉純子 (東京芸術大学)

市民・自治体・大学の協同によるアートプロジェクト
「取手アートプロジェクト」(茨城県取手市)

概 要

- ・1999年より毎秋開催されている市街アート展(美術以外の分野も含む)
- ・取手市(予算他)・市民(実務運営ボランティア)、東京芸術大学(専門ネットワーク)の三者が共同で実施:主催は実行委員会
- ・目的 若いアーティストたちの創作発表活動を支援
広く市民が芸術に身近に触れる機会を提供
取手が文化都市として発展してゆくこと

事業概要

- ・全国から作品案を公募する若手の登竜門的野外展(リ・サイクリングアートプロジェクト)
- ・市内在住作家のアトリエ公開(オープンスタジオ)
- ・環境整備事業
 - ・都市環境整備:JR高架下などに壁画を作成(2003)、ガスタンクのデザインコンペ(2005)
 - ・芸術環境整備:駅前の商業ビル内にTAPサテライトギャラリーを開設(2005)
 - ・芸術教育事業:児童画展と学校へのアーティスト派遣
 - ・アートマネージャー育成事業:インターン制度TAP塾(2004~)

予算の内訳:2005年度の予算は約1,000万円

- ・取手市:400万円
- ・文化庁【「文化芸術による創造のまち」支援事業】:400万円
- ・民間【メセナ企業・地元企業・市民の個人寄付(TAPエンジェル)】:170万円
- ・収益【参加料・ガイドブック売上・カフェ売上】:30万円

運営体制(別表参照)

- ・実行委員会(委員長:芸大副学長、副委員長:取手市長、地元経済界など)
- ・実施本部
 - 1)運営スタッフ(約15名):1年以上経験のあるボランティア
 - ・定年退職後のサラリーマン
 - ・子育てを終えた主婦
 - ・芸大教員:2名
 - ・事務局(有給):4名(2名は2004年度のインターンシップ修了者)
 - ・取手市文化振興課担当者
 - 2)インターン(2005年度登録:約42名):はじめてTAPに参加するボランティア
 - ・取手市内17名、市外25名
 - 学生:24名(東京芸大、筑波大、日本大学、慶応大学、東京工芸大学、東京大学等)
 - 主婦:4名、フリーター:7名、サラリーマン/OL:6名、退職後のサラリーマン:1名

アートマネージャー育成事業:インターン制度TAP塾(2004~)

TAPは市民運営というユニークな方式を取るプロジェクトである。さまざまな立場の市民がまちづくりに自ら関わろうと、アートを媒介にボランティアの輪を広げている。TAPでは昨年度から環境整備事業の一環としてアートマネジメントの人材育成を目的にインターンシップ制度を取り入れ、そうした市民の熱意をスキルへと高める手助けをおこなっている。TAPの企画運営に携わる人材をインターンとして市内外から募集、「TAP塾」と称した座学+実践研修プログラムを通して、アートマネジメントの理念や実践を1年かけて学ぶ。「TAP塾2005」には、市内のみならず全国から幅広い年齢層と多様な立場の人々が集まり、専任講師の森司氏(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)のもとで、TAPの企画運営の実務に取り組んでいる。2004年度は15名の市民が1年間の活動を全うし、修了証を授与された。(2005年度企画書より)

今後の課題...活動の継続 ネットワークの拡がり 地域への定着と外部からのリソース流入
「まち作り」に成果???